

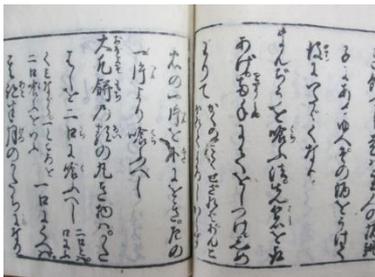
「島の学び舎」だより

創刊準備号

発行：平成30年2月
 発行者：下松市教育委員会
 編集：下松市郷土資料展示収蔵施設
 「島の学び舎」
 (0833) 52-0860



クローズアップ
「造船のまち江の浦」
 空を飛ぶ船？いいえ、これは「島の学び舎」二階廊下（造船のまち江の浦）から見える（株）新笠戸ドックの景色で、船首部分の部品を巨大クレーンでつり下げて移動しているところです。現在の造船は、他の工場で作られた巨大部品を組み立てて行います。移動する巨大部品の様子は、ダイナミックで一見の価値があります。スケッチにも好適です。（日曜は、クレーンは動いていません。）



展示小品紹介

「あんをこぼさずに饅頭を食べる方法」

当館では、江戸時代の和本を多く收藏しています。貝原益軒の行事作法書『三礼口訣』にこの方法が書かれています。

貝原益軒（一六三〇～一七一四）江戸時代の本草学者・儒学者。『養生訓』が有名。

新展示 「笠戸大橋ができるまで」
 昭和四十三年一月の起工式から昭和四十五年十一月の完成式までの歩みを、撮影されたもので、変わりゆく海峡の風景と島民の笠戸大橋にかける思いを記録した大変貴重なものです。併せて、巡航時刻表を展示しています。



詳細マップ

開館日時 火・木・土・日・祝
 10時～16時
 所在地 下松市大字笠戸島 32-38

編集後記
 「島の学び舎」は、おかげさまで、開館一周年を迎えることができ、ふるさとのさまざまな歴史を学べると好評をいただいております。

「島の学び舎」では、貴重な郷土資料を次世代に伝えていく為に、収蔵資料の収集・整理・分析を行っています。その成果は、今後の展示に活用するとともに、本紙で最新情報として報告して参ります。

なお、昔の農作業風景の写真、塩田用具をお持ちの方は御連絡ください。



話題の資料
 斗柄（とます）は、米を計る農具です。斗掻き（とかき）という円筒状の均すときれいに計れる昔の子供たちの農作業のお手伝いとして人気でした。現在、斗掻きを探しています。